

(別紙9)

新潟県におけるクマ類の調査の実施に係る評価報告
(調査・計画策定事業)

1 現状のクマ類の調査の状況及び課題等

本県では、ツキノワグマの生息域の拡大し、出没件数が増加傾向にあり、人身被害件数が発生しており、ツキノワグマによる人身被害等を防止するための対策が求められている。近年、人里周辺に生息していると言われるツキノワグマ（新世代クマ）の存在が指摘されていることから、今後の人身被害等の防止対策の立案等に資するため、新世代グマの実態把握を行う必要がある。

2 実施した調査の具体的な内容等

実施時期	令和7年2月～3月
場所	新潟県内（猟友会員）
目的・必要性	里地周辺に生息していると言われるツキノワグマ（新世代クマ）の生態等について、現場でツキノワグマの出没対応や捕獲に携わっている猟友会員から聞き取りを行い、その結果を整理・共有することで今後の対策の立案等に資する。
調査主体	新潟県
内容・得られる情報	・ツキノワグマの生息域の変化について ・山の木の実の資源量の変化について ・ツキノワグマの冬眠場所の変化について 等
方法	委託により実施
活用方法	今後の捕獲場所の選定等
事業費	1,999,800円
備考	

注：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。実施する調査が複数ある場合は、調査の種類毎に各項目を記入すること。

3 調査結果及び考察（事業終了後の評価報告時のみ）

<p>【調査結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none">・県内の猟友会員（佐渡市及び粟島浦村居住者を除く）は2,172人（調査時）のうち回答数が820人（アンケート回収率：36.8%）・ツキノワグマの生息域の変化について 問「ツキノワグマの生息域はどのように変化していますか。」に対して、「拡大している」が最多（39.5%）・山の木の実の資源量の変化について 問「山の餌（木の实等）の状況はどのように変化していますか。」に対して、「年によって大きく異なる」が最多（36.3%）で、次点は「減っている」（18.4%）・ツキノワグマの冬眠場所の変化について 問「ツキノワグマの冬眠場所はどのように変化していますか。」に対して、「人里周辺で冬眠している気配がするようになった」（22.1%）、「冬眠しない個体が増えた」（11.7%）、「あまり変わっていない」（14.9%）、「わからない」（48.1%）、「未回答」（3.2%）
--

問「冬眠しない個体が増えた要因は何だと思いますか。（複数回答可、「冬眠しない個体が増えた」と回答した方のみ 180 人が回答）」に対して、「堅果類（ブナ、ナラ）の不良・不足による冬眠できないクマの増加」（55.0%）、「地球温暖化」（24.4%）、「降雪量の減少」（11.7%）、「耕作放棄地等の増加による人里での餌の充実」（6.7%）、「シカ等の増加による餌の充実（クマの肉食化）」及び「わからない」（1.1%）

・その他

問「あなたは市町村からの依頼を受けて、ツキノワグマの予察捕獲や出没対応及び有害鳥獣捕獲を行ったことがありますか。」に対して、「ある」（45.0%）、「ない」（51.2%）、「未回答」（3.8%）

問「あなたのお住まいの市町村では、ツキノワグマの出没対応等にかかる体制について、今後どのようになると考えられますか。」に対しては、「高齢化等により、数年で対応できる人がいなくなる」（24.7%）、「高齢化等により、5年程度で対応できる人がいなくなる」（26.6%）

【考察】

- ・調査結果から、現場でツキノワグマの出没対応や捕獲に携わっている猟友会員において、冬眠場所が人里周辺で冬眠している、冬眠しない個体が増えたと感じている方が多いことから、ツキノワグマの生息域が人里周辺に拡大していることが示唆された。
- ・ツキノワグマの出没対応等にかかる体制について、高齢化により対応できる人がいなくなるという回答や、回答者の年代（多い方から 70 代（38.3%）、60 代（20.6%）、50 代（17.8%））を考えると、人身被害等の防止のため、ツキノワグマの捕獲従事者の確保の観点から、捕獲に必要な技術の向上を図る研修等を継続することが重要と考えられる。

【今後の改善点】

- ・アンケートの回収率について、対象である猟友会員が最も多い新潟市内（約 600 人）のほとんどの地域でツキノワグマの生息が確認されておらず、新潟市内の多くの会員が回答しなかったことも影響した。
また、ツキノワグマの予察捕獲や出没対応及び有害鳥獣捕獲を行ったことがあるという回答が 45.0%であり、各設問において「わからない」を選択した回答が多く見受けられた。
以上から、今後、同様の調査を行う場合は、より効果的に調査が実施できるよう、調査対象者の絞り込み等を検討したい。

【活用方法】

- ・今後のツキノワグマの捕獲場所や出没防止対策地域の選定や、捕獲従事者の確保及び技術向上に向けた施策の検討に活用する。

注：調査によって得られた情報と分析結果、調査結果の活用方法等を記載するとともに、今後の改善点や必要な調査等についても記載すること。

4 その他

注 1：モニタリング・調査の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注 2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。